

8月の農作物病害虫発生現況

(令和6年8月13日現在) 山口県病害虫防除所

- 1 巡回調査期間:8月6～8日
- 2 1か月気象予報(8月8日福岡管区気象台発表)
気温:低い 10%、平年並 10%、高い 80%
降水量:少ない 40%、平年並 40%、多い 20%
日照時間:少ない 20%、平年並 30%、多い 50%

3 発生現況

【イネ】

○いもち病(穂いもち)

発生現況(穂いもち): 多

初発生:早い 8月6日(平年8月12日)柳井市

ほ場調査:多 発生ほ場率 19.4%(平年 4.0%)、発病株率 2.8%(平年 0.8%)、発病穂率 0.1%(平年 0.1%)、被害度 0.0(平年 0.0)

発生現況(葉いもち):平年並

ほ場調査:平年並 発生ほ場率 25.0%(平年 24.9%)、発病株率 7.4%(平年 10.9%)、発病度 1.8(平年 2.7)、病斑の最上位葉 2.4 葉(平年 2.7 葉)

今後の予想:やや多

予想の根拠: 現況発生量(+)、現況葉いもち発生量(±)、気温は高い、降水量は平年並か少ない(-)

備考:上位葉に葉いもちが発生しているほ場は、直ちに防除を行う。穂いもちの防除を適期に実施する。粉剤・液剤は穂ばらみ後期及び穂揃期の2回行い、粒剤・パック剤は出穂前に施用する。

○紋枯病

発生現況:多

ほ場調査:多 発生ほ場率 18.5%(平年 10.7%)、発病株率 1.3%(平年 1.3%)、発病度 0.4(平年 0.3)

今後の予想:多

予想の根拠:現況発生量(+)、気温は高い(+)

備考:穂ばらみ中期(出穂前14日頃)の発病株率が15～20%以上の場合に防除を行う。

○ごま葉枯病

発生現況:やや少

ほ場調査:やや少 発生ほ場率 8.6%(平年 12.8%)、発病株率 5.5%(平年 4.0%)、発病度 1.4(平年 1.0)

今後の予想:平年並

予想の根拠:現況発生量(-)、気温は高い、降水量は平年並か少ない(+)

備考:穂いもちとの同時防除を行う。穂枯れを発生させないようにする。

○セジロウンカ

発生現況:少

ほ場調査:少 発生ほ場率 24.7%(平成 51.0%)、0.5 頭/10 株(平成 21.5 頭/10 株)

県内3か所の予察灯誘殺数(7月7日～8月6日):多 1,038 頭(平成 73 頭)

今後の予想:少

予想の根拠:現況発生量(-)、気温は高い、降水量は平成並か少ない(+)

備考:中生種や飼料用米で防除の目安を超えるほ場(穂ばらみ中期までに株当たり 50 頭以上(成幼虫)のほ場)は褐変穂を生じる可能性があるため薬剤防除を行う。出穂した後のほ場では、防除の必要性は低い。

令和6年7月8日付け令和6年度農作物病虫害発生予察技術資料第3号を参照。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22318.html>

○トビイロウンカ

発生現況:平成並

ほ場調査:平成並 発生ほ場率 3.7%(平成 18.3%)、0.0 頭/10 株(平成 3.1 頭/10 株)

県内3か所の予察灯誘殺数(7月7日～8月6日):平成並、0 頭(平成 2.3 頭)

今後の予想:平成並

予想の根拠:現況発生量(±)、気温は高い、降水量は平成並か少ない(+)

備考:飛来日から予測される防除適期は8月 19 日～27 日頃であり、この時期にはほ場を確認する。防除の目安は、8月中旬以降は株当たり成幼虫5頭以上である。

令和6年7月8日付け令和6年度農作物病虫害発生予察技術資料第3号を参照。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22318.html>

○コブノメイガ

発生現況:やや多

ほ場調査:やや多 発生ほ場率 63.0%(平成 27.4%)、被害葉率 0.3%(平成 0.6%)、20 回払い出し虫数 0.9 頭(平成 0.7 頭)

今後の予想:やや多

予想の根拠:現況発生量(+)、気温は高い、降水量は平成並か少ない(+)

備考:飛来日から予測される防除適期は8月 13 日～19 日頃であり、出穂の遅いほ場では注意する。特に、葉色の濃いイネでは被害を受けやすい。

○斑点米カメムシ類

発生現況:多

出穂ほ場におけるすくい取り調査:多 20 回当たり虫数 8.3 頭(平成 2.5 頭)、主なカメムシ類;クモヘリカメムシ 1.2 頭(平成 0.4 頭:多)、イネカメムシ 3.7 頭(平成 0.9 頭:多)、ホソハリカメムシ 0.5 頭(平成 0.2 頭:多)、アカスジカスミカメ 1.2 頭(平成 0.8 頭:やや多)

県内3か所の予察灯誘殺数(7月6日～8月5日):多 6,567 頭(平成 1,346 頭)、内訳はクモヘリカメムシ 365 頭(平成 51 頭:多)、アカスジカスミカメ 5,487 頭(平成 986 頭:多)、アカヒゲホソドリカスミカメ 440 頭(平成 197 頭:やや多)、ミナミアオカメムシ 162 頭(平成 30 頭:多)、イネカメムシ 113 頭(平成 83 頭:平成並)。

今後の予想:多

予想の根拠:現況発生量(+)、予察灯誘殺数(+)、気温は高い、降水量は平年並か少ない(+)

備考:穂揃期と穂揃期7日後の2回防除を徹底する。イネカメムシの発生が多いほ場では、防除適期である出穂期に遅れないよう、出穂期と出穂期7日後の薬剤防除を実施する。防除後もほ場での発生状況を確認し、カメムシ類の発生が認められる場合は、さらに7日後の追加防除を実施する。

粒剤で防除を行う場合は、液剤より1週間程度早く散布する。粒剤はイネカメムシ等の大型カメムシに対しては効果が劣るため、これらが多い場合は粉剤、液剤の使用が望ましい。

令和6年7月17日付け令和6年度農作物病害虫発生予察注意報第2号を参照。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22328.html>

【大豆】

○吸実性カメムシ類

発生現況:やや多

払落し調査:平年並 発生ほ場率 68.8%(平年 36.6%)、0.3 頭/m²(平年 0.3 頭/m²)

県内3か所の予察灯誘殺数(7月6日～8月5日):多 208 頭(平年 76 頭)、内訳はイチモンジカメムシ8頭(平年7頭:平年並)、アオクサカメムシ 38 頭(平年 39 頭:やや多)、ミナミアオカメムシ 162 頭(平年 29 頭:多)。

今後の予想:やや多

予想の根拠:現況発生量(+)、気温は高い、降水量は平年並か少ない(+)

備考:子実肥大期(開花期後 45～50 日)の防除を実施する。散布後にもカメムシ類が発生する場合は、追加防除(開花期後 60 日頃)を実施する。

○ハスモンヨトウ

発生現況:平年並

ほ場調査:平年並 発生ほ場率 16.7%(平年 10.9%)、1a 当たり白変か所数 0.2 か所(平年 0.2 か所)

県内5か所フェロモントラップ誘殺数(7月1日～7月31日):やや多 2,984 頭(平年 2,235 頭)

今後の予想:平年並

予想の根拠:現況発生量(±)、フェロモントラップ誘殺数(+)、気温は高い、降水量は平年並か少ない(+)

備考:防除の目安は、白変葉の発生か所数が 1a 当たり5か所以上。中～老齢幼虫には薬剤の効果が悪るので、若齢幼虫時の防除を徹底する。

○ウワバ類等のチョウ目

発生現況:平年並

ほ場調査:平年並 発生ほ場率 75.0%(平年 72.5%)、1.1 頭/m²(平年 1.0 頭/m²)

今後の予想:平年並

予想の根拠:現況発生量(±)、気温は高い、降水量は平年並か少ない(+)

備考:発生の主体はウワバ類、オオタバコガ。ほ場をよく確認し、発生が多い場合は防除を行う。

【果樹全般】

○カメムシ類(クサギカメムシ、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ)

発生現況:多

県内4か所の予察灯誘殺数(7月6日～8月5日):多 2,413 頭(平年 271.8 頭)

県内4か所のフェロモントラップ誘殺数(7月11日～8月10日):多 48,550 頭(平年 2,218 頭)

今後の予想:多

予想の根拠:現況発生量(+)、気温は高い(+)

令和6年7月30日付け令和6年度病虫害発生予察技術資料第4号参照。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22318.html>